
視神経を爪弾く

エイノジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

視神経を爪弾く

【Z-ノード】

Z7934Y

【作者名】

エイノジ

【あらすじ】

蹴球510 × 毒舌

ギター

(前書き)

後藤くんは暗いのが苦手な怖がり

「プロプロハセエなあ」

収録でギターを弾く機会があつたので、わざわざ持つて来て、樂屋でチューイングをしていると丁度一緒になつた毒舌家に文句を言われる

毒舌様は読書中で、気が散つてしまつりしき苛々していた

「そんなこと言わんとつてくださいよ」

「うつせえもんはうつせえんだよ。どつか他所でやれ「いやギター楽しいです、ほら有吉さんも触ります?」

愛用の楽器を他人に触らせるなんて普段は有り得ないことだが、知りもしないのに批判されでは敵わない

「いいよ、持つてくんな鬱陶しい……」

「ほり、どうぞ触つてください」

差し出すと嫌そつながら受け取り、弾きだす

「楽しいでしょ?」

「いい、後藤が弾いてよ」

楽しそうに弾く手を止め、突き返される

「聞いてくれるんですか?」

「BGM程度にな」

意地悪そうな顔じゃなく、微笑みのような笑顔で言われたら18番を披露するしかない

ジャカジャカ演奏していたら

「ギターする人つてよく目え瞑るよね、見なぐても弾けんの?」

「まあ、大体手が勝手に動くんで」

「じゃあさ」

本片手に近付いてきた有吉さんが俺の目を塞ぐ

「見えなくしていい?」

「……あ……」

暗くなつた視界に悪戯つ子の声だけが響いた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7934y/>

視神経を爪弾く

2011年11月23日17時45分発行